

令和4年度第2回  
京都大学大学院人間・環境学研究科  
修士課程学生募集要項

本研究科の修士課程は、大学院設置基準にいう博士課程の前期2年の課程である。

### 大学院人間・環境学研究科の目的

人間・環境学研究科は、環境、自然、人間、文明、文化を対象とする幅広い学問分野の連携を通じて、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深めるとともに、人間と環境のよりよい関係を構築するための新たな文明観、自然観の創出に役立つ学術研究を推進することを目指す。また、こうした研究活動を推進するなかで、人間及び環境の問題に対して広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって取り組むことのできる研究者、指導者、実務者を養成することを目指す。

#### <共生人間学専攻>

共生人間学専攻では、「人間相互の共生」という視点に立ち、人間と環境の相関関係において人間の根源を探求しつつ、現代社会の具体的諸課題に取り組み、社会的要請に柔軟に応えられる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

#### <共生文明学専攻>

共生文明学専攻では、共生・融和の可能性を追求するため、多様な文明の間にみられる対立・相克の構造を解明するとともに、歴史・社会・文化の諸相にわたって複雑にからみあう文明の諸問題に新たな見地から取り組み、解決の方向性を示すことのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

#### <相関環境学専攻>

相関環境学専攻では、人間と自然環境の関わりを包括的に理解することを目指した基礎研究を展開するとともに、自然と人間の調和を図るために必要な新しい社会システムの確立に、高度な見識と科学的・論理的判断力をもって貢献することのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指す。

### 1. 募集人員 61名(社会人若干名を含む)

共生人間学専攻	18名
共生文明学専攻	29名
相関環境学専攻	14名

### 2. 出願資格 出願時において、次のいずれかの資格を有する者

- (1) 大学又は専門職大学を卒業した者及び令和4年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和4年3月31日までにそれに該当する見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学(専門職大学に相当する外国の大学を含む、以下この項において同じ。)の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和4年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和4年3月31日までに授与見込みの者
- (7) 文部科学大臣が指定する専修学校の専門課程を文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び令和4年3月31日までに修了見込みの者

- (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)及び令和4年3月31日までにそれに該当する見込みの者
- (9) 令和4年3月31日で大学又は専門職大学に3年以上在学したことになる者(学校教育法第102条第2項の規定により、これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。)であって、所定の単位(専門科目56単位以上を含め、計112単位を下限とする。)を優れた成績をもって修得し得ると本研究科において認める者
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和4年3月31日までに22歳に達するもの

**【注1】** 出願資格(9)・(10)により出願を希望する者は、出願に先立ち、出願資格の審査を行うので、申請に必要な書類を令和3年11月19日(金)までに本研究科大学院掛へ請求・入手し、関係する証明書を添えて大学院掛へ書留便で郵送すること。

(令和3年11月26日(金)午後5時(必着))

**【注2】** 外国の大学を卒業(見込みも含む)した者は本研究科が定める出願期間前に、下記のAAO(Admissions Assistance Office、以下「AAO」)において出願資格の照会をすること。令和3年12月7日(火)までに照会手続きが完了していない場合は、出願することができない。また、出願の際に、AAOより結果通知メール件名欄に記載されているID番号を、履歴書(本研究科交付の所定用紙)の右下にある記入欄に必ず記入すること。

**AAOについてのHP**

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students1/study1/graduate/graduateinfo/ku-aa0>

### 3. 出願書類等

下記の出願書類を所定封筒(願書等の入っていた青色封筒)により書留便で郵送すること。

(1) 入学願書・写真票・ 受 験 票	所定用紙に必要事項を記入のうえ、上半身脱帽正面向きで、出願前3か月以内に撮影した写真(縦3cm×横2.4cm)を各票それぞれの所定の枠内に貼付すること。 記入にあたり願書裏面の注意事項を熟読のこと。※受験票は1月21日頃発送予定
(2) 卒業(見込)証明書及び 成 績 証 明 書	出身大学学長又は学部長が作成したもの。(外国の大学はコピーでも可。なお、大学学部編入した者は、編入前の大学の成績証明書も提出。)
(3) 入学検定料収納 証明書 貼付台紙	<p><b>検定料 30,000円</b>  <b>振込期日 令和3年12月9日(木)～令和3年12月22日(水) (期間外取扱不可)</b>  *国費留学生の場合「奨学金受給証明書」をもって入学検定料に代える。  (支払方法)  「京都大学E X決済サービス」(<a href="https://www3.univ-jp.com/kyoto-u/hae/">https://www3.univ-jp.com/kyoto-u/hae/</a>) にアクセスし、画面の指示に従って、入学検定料を支払うこと。  ・手数料(650円)が必要。  ・必ず「納入者名」が出願者本人の氏名であることを確認のうえ納入のこと。  (出願者以外の名義で納入された場合、願書を受理できない可能性がある。)  ・支払い完了後、<b>支払い確認画面から収納証明書を印刷</b>して、必要な部分を切り取り、「<b>入学検定料収納証明書貼付台紙</b>」に貼付して提出すること。  支払い方法について不明な点があれば、以下に問い合わせること。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「京都大学E X決済サービス」ヘルプデスク  TEL 0570-06-3324  受付時間 10:00～18:00  問い合わせ受付期間 令和3年12月9日(木)～令和3年12月22日(水)</p> </div> <p>注 入学検定料を振り込んだが出願しなかった場合、または、誤って二重に振り込んだ場合は、本募集要項表紙掲記の大学院掛にその旨を申し出ること。  *平成23年3月に発生した東日本大震災ならびに平成28年4月に発生した熊本地震、平成30年7月豪雨、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震、令和元年10月に発生した台風19号、令和2年7月豪雨による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災された方で、罹災証明書等を得ることができる場合は入学検定料を免除することがあります。詳しくは、11月26日(金)までに、本研究科大学院掛まで問い合わせてください。</p>
(4) 受験票等送付用封筒	所定封筒に出願者の郵便番号・住所・氏名を明記し、 <b>354円分の切手</b> を貼ること。
(5) あ て 名 票	所定用紙に合格通知等を受け取る住所・氏名・郵便番号を記入すること。

(6) 論文	<p>専門試験に論文試験の審査を加えようとする者は、出願に先立ってあらかじめ第1志望の教員に相談すること。</p> <p>論文試験による出願を認められた者は、これまでに執筆した研究論文(未発表のものも可)1編3部とその要約(日本語文4,000字程度を綴じたもの)3部を提出すること。</p> <p>〔論文が入る大きさの封筒又は小包に、(1)～(5)・(7)の出願書類を入れた所定の青色封筒を同封し、必ず書留便で郵送すること。〕</p>
(7) その他の添付書類 ① 履歴書 ② 住民票、在留カード又はパスポートの写しのいずれか ③ 学位記の写し又は学位授与証明書	<p>①外国人留学生及び外国の大学を卒業した者は、履歴書(本研究科交付の所定用紙)を提出すること。</p> <p>②外国人留学生で、日本に在留している者は市区町村長の発行する住民票又は在留カードの表・裏両面の写し(住民票、在留カードは在留資格、在留期間が記載されたもの)を、海外在住の者はパスポートの写し(顔写真の貼付されたページ)を提出すること。</p> <p>③上記2. 出願資格(2)による学士の学位を授与された者は、学位記の写し又は学位授与証明書を提出すること。なお、学位授与見込みの者は、当該「修了見込証明書」及び「学士の学位授与申請(予定)証明書」(様式随意：学位が得られないこととなった場合は、速やかに通知する旨の記載があるもの)を提出すること。</p>

#### 4. 出願手続

##### 郵送に限る。

出願者は、前記の出願書類を取り揃え、**所定封筒(書留便)で郵送すること。(直接持参しても、受け付けない。)**

なお、出願書類に不備があれば受理しない場合がある。

#### 5. 願書受理期間

令和3年12月20日(月)から令和3年12月22日(水)午後5時まで(必着)。ただし、令和3年12月20日(月)以前の発信局消印のある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理する。

なお、願書受理後に受験票を令和4年1月21日(金)頃に発送する予定。

#### 6. 選抜試験実施方法

選抜試験は外国語試験、専門試験および口述試験により実施する。専門試験および口述試験の実施方法は共通であるが、外国語試験は下記の表の通りA方式にて実施する。第一志望の指導教員の所属する講座のとり方に従うこと。

A方式			
試験第1日目に第1外国語、第2外国語の筆答試験を課す。	受験生一般・外国人留学生ともに、試験第1日目に第1外国語(英語)、第2外国語(英語)の筆答試験を課す。		
11. 人間社会論講座 12. 思想文化論講座 15. 言語科学講座 16. 外国語教育論講座	21. 現代文明論講座 22. 比較文明論講座 23. 文化・地域環境論講座 24. 歴史文化社会論講座	13. 認知行動科学講座 14. 数理科学講座 31. 共生社会論講座	32. 分子・生命環境論講座 33. 自然環境動態論講座 34. 物質相関論講座

## 7. 試験日程等

試験場：京都大学吉田南構内（詳細は受験票送付時に案内する）

### ・外国語科目試験（A方式）

令和4年2月8日（火）	
<b>外国語</b> <b>（筆答試験）</b>  <b>午前9時</b> <b>～11時</b>  <b>（注）</b> 1言語につき1冊の語学辞書（ただし、電子辞書を除く）の使用を許可する。	<b>&lt;受験生一般&gt;</b> 英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・イタリア語・中国語・スペイン語・アラビア語・朝鮮語のうちから第1外国語と第2外国語を選択すること。 ただし、第1志望と第2志望を下記の講座に属する専門分野の中から選ぶ者は、第1外国語に英語を選択する場合、第2外国語として第2外国語用の英語問題を選ぶことができる。 外国語は出願時に選択し、出願後の変更は認めない。 （英語以外は、第1外国語、第2外国語に同一外国語を選択できない。）
	11. 人間社会論講座 15. 言語科学講座 21. 現代文明論講座のうち 現代社会論分野、国際社会論分野 23. 文化・地域環境論講座 24. 歴史文化社会論講座のうち 博物館文化財学分野、日本語学、 日本文学、日本歴史関係の教員 （須田、佐野宏、長谷川、吉江、熊谷）
	<b>&lt;外国人留学生&gt;</b> 第1外国語：日本語 第2外国語：前記9か国語のうちから選択 （問題の選択については、5頁別表1及び6頁別表2を参照。）  13, 14, 31～34 講座の受験生は、受験生一般・外国人留学生とも、第1外国語、第2外国語に英語を選択すること
	13. 認知・行動科学講座 14. 数理科学講座 31. 共生社会環境論講座 32. 分子・生命環境論講座 33. 自然環境動態論講座 34. 物質相関論講座

### ・専門科目試験

令和4年2月8日（火）	
<b>専門科目</b> <b>（筆答試験）</b>  <b>午後0時半</b> <b>～3時</b>	本研究科において勉学を希望する専門分野（第1志望）についての学力を問う。 なお、専門分野に関係した外国語の問題を加えることがある。詳細は「専門科目出題説明一覧」を参照のこと。 専門分野は出願時に選択し、出願後の変更は認めない。

### 試験科目別配点

科	目	配点
外国語（A方式）	第1外国語	80
	第2外国語	20
専門科目（筆答試験）		*300
合計		400

\* ただし、論文受験許可者の配点は論文200点、筆答試験100点とする。

・口述試験

令和4年2月9日（水）	
午前 9 時～ （所要約 25 分）	本研究科において勉学を希望する専門分野についての学力を口頭で問う。 なお、個別の受験者の面接時間と会場は受験票送付時に同封する面接表を参照のこと。

・論文試験（選択にあたっては、3. 出願書類等の(6)を参照のこと。）

令和4年2月9日（水）	
午前 9 時～ （所要約 25 分）	提出した論文を審査（論文についての口頭試問を含む）する。

※前日の専門科目試験（筆答試験）を受験しなかった者については口述・論文試験を行わない。

・予備日（令和4年2月10日（木））

暴風警報の発令等により試験実施が困難な場合に、試験の実施日程を1日ずつ繰り下げる場合がある。その場合の予備日を上記の日とする。試験日を変更する場合は、試験予定日の朝までに人間・環境学研究科ホームページ（<https://www.h.kyoto-u.ac.jp>）及び人間・環境学研究科掲示板にて告知するので、必ず確認すること。

8. 合格者発表

**令和4年2月18日(金)午後1時頃、大学院人間・環境学研究科公用掲示板に発表する。**

なお、受験者の便宜のため、合格者受験番号を一時的にホームページに掲載するが、正式な発表は人間・環境学研究科公用掲示板で確認すること。（電話等による結果の問合せには応じない。）

合格者には2月25日(金)頃に合格通知書を簡易書留にて発送する。

掲示の合格発表は受験番号のみで行うので、各自の合格した講座・担当教員については「合格通知書」により確認すること。（参考）人間・環境学研究科ホームページ <https://www.h.kyoto-u.ac.jp>

9. 入学手続等

入学料 282,000 円 \*入学時に改定されることがある。

授業料 前期分 267,900 円（年額 535,800 円） \*入学時、在学時に改定されることがある。

入学手続場所・入学手続日・入学手続書類等については、合格通知と併せて送付する。

10. 3年次修了合格者

上記2. 出願資格(9)に該当する者については、合格者発表に際し、これを仮合格者とし在学中の成績が所定の要件を満たしていることを確認したのち、正式の合格者とする。そうでない場合は、不合格とする。

成績確認に必要な書類は、令和4年3月4日（金）までに提出すること。

11. 国費留学生

本研究科を受験しようとする外国人留学生で、国費留学生(文部科学省奨学金受給者)は、入学願書提出に先立ち、本研究科において勉学を希望する専門分野の担当教員に申し出て相談すること。

[別表 1.]

留学生向け第1外国語(日本語)の問題選択について

第1外国語(日本語)の問題は、「日本語A」(より高度な内容)、「日本語B」(一般的な内容)の二種を設けるが、その選択にあたっては次によること。

「日本語A」…下記の講座の専門分野を受験する者

「日本語B」…下記以外の講座の専門分野を受験する者

記

11. 人間社会論講座

12. 思想文化論講座

15. 言語科学講座

16. 外国語教育論講座

24. 歴史文化社会論講座

(辻・道坂・松江を志望する者は日本語Bも選択可)

ただし、第1志望で「日本語B」を受験する場合、第2志望として「日本語A」の課される上記講座の専門分野を選ぶことができない。その逆は差し支えない。

[別表 2.]

## 留学生向け第 2 外国語の問題選択について

第 2 外国語の問題は、第 1 志望と第 2 志望を下記の講座に属する専門分野の中から選ぶ者以外は 9 科目のうちから自由に選択して良い。

記

- 12. 思想文化論講座・・・9 科目のうち母国語以外から選択
- 23. 文化・地域環境論講座・・・英語を指定

### 12. 社会人入学

社会人で、大学院設置基準第 14 条特例(社会人学生の所属先における勤務条件、通学に要する時間等を考慮し、授業時間は、通常の授業時間帯及び通常の授業時間帯以外の特定の時間又は時期に設ける)による教育の実施を希望する者は、入学願書提出に先立ち、本研究科において勉学を希望する専門分野の担当教員に申し出て相談すること。

### 13. 注意事項

#### (1) 出願に関する注意

- ア. 別記(3. 出願書類等(6)、11. 国費留学生、12. 社会人入学、専門科目試験出題説明一覧 244 分野)した以外の受験希望者についても、出願に先立って志望する教員との面談を希望する者は、研究科のホームページに公開されている教員のメールアドレス等に連絡すること。
- イ. 出願手続後は、いかなる理由があっても書類記載事項の書き換えを認めない。また、入学検定料の払い戻しはしない。

#### (2) 受験に関する注意

- ア. 試験に関する注意事項等については、願書受理期間終了後受験票の郵送とともに通知する。
- イ. 試験の解答は日本語で記述すること(試験問題中に解答言語が別途指定されている場合を除く)。
- ウ. 語学辞書の使用許可については、下記のとおりとする。
  - a) 外国語試験においては、1 言語につき 1 冊の語学辞書(ただし、電子辞書は除く。)の使用を許可する。
  - b) 専門試験においては、辞書の使用を許可しない。

#### (3) 論文試験受験のために提出された論文は、返却しない。

#### (4) 入学手続に関する注意

- ア. 出願時に大学・大学院(研究生等を含む。)に在学の者は、所属長の発行する退学証明書(様式随意。退学の日付は、令和 4 年 3 月 31 日以前であること。)又は卒業証明書等を入学手続時に提出すること。
- イ. 官公庁・会社等に在職のまま入学する者は、所属長の発行する入学承諾書(様式随意)を入学手続時に提出すること。
- ウ. 出願時に、2. 出願資格(2)に該当する専攻科又は課程に在学の者は、所属長の発行する修了証明書及び学位授与機構の発行する学位記の写し又は学位授与証明書を入学手続時に提出すること。

#### (5) 障害等があり受験上若しくは修学にあたって配慮を必要とする者は、令和 3 年 11 月 19 日(金)までに、本研究科大学院掛へ申し出ること。

### 14. 個人情報の取り扱いについて

出願書類等に記載されている、氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報(成績判定に関する情報を含む)は、入学試験の実施および入学手続き等のため、「京都大学における個人情報の保護に関する規程」の定めるところにより取り扱う。

### 15. その他

出願書類の郵送を希望するときは、受信場所及び受信者氏名を明記し、**210 円切手(第 1 種定形外料金)**を貼った標準封筒角形 2 号(332 mm×240 mm)を同封し、**京都大学大学院 人間・環境学研究所 大学院掛に、「第 2 回修士課程学生募集要項請求」と朱書して申し込むこと。**

令和 3 年 1 1 月

京都大学大学院人間・環境学研究所  
110jinkan\_jimu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

令和4年度第2回 専門科目試験

出題説明一覽

共生人間学専攻(1/2)

講座番号	分野番号	分野名	出題内容についての示唆
11	111	人間形成論	人間形成の諸問題に関わって、精神分析学・精神病理学、発達心理学、教育社会学、教育史から出題した問題の一つを選択し解答する。なお、精神分析学・精神病理学は外国語(英・独・仏)を問う問題(選択式)を含む。
	112	人間共生論	* 学生を募集しない。
	113	社会行動論	以下の論述形式の問題の中から一つを選択する。 a. 社会学 b. グループ・ダイナミックス、社会心理学
	114	文化社会論	歴史社会的な観点から、主として欧米と日本の諸文化(文学、思想、芸術、映画、メディア、社会制度など)を考察する(選択式論述問題)。 外国語(英独仏語)の問題を課すこともある(動態映画文化論は英語のみ、制度・生活文化史は選択式)。
12	121	人間存在論	哲学の基本的知識を問う共通問題と並んで、以下の中から一つを選択する。 a. 自己存在論:存在論・現象学・解釈学を中心に、哲学の知識と思考力を問う問題。 b. 認識人間学:認識論・分析哲学・科学哲学を中心に、哲学の知識と思考力を問う問題。 c. 哲学・文化史:哲学史を中心に、それと関係する科学史・文化史などに関する知識と思考力を問う問題。 d. 人間実践論:現象学・実践哲学(倫理学)を中心に、哲学の知識と思考力を問う問題。
	122	創造行為論	以下の中から一つを選択する。 a. 西洋および日本の美学・芸術学・美術史についての知識を問う。 b. 英米演劇についての知識を問う。
	123	文芸表象論	近代英米文学、文学史および文芸批評に関する知識を問う。
13	131	認知科学	認知科学・行動制御学・身体機能論の受験生は、専門試験科目として「認知・行動科学」を受験すること(これ以外の科目の受験は認めない)。本試験科目では、「基礎」と「発展」の2つの大問を設定し、受験生は各大問に含まれる小問を1問ずつ選択して解答する。 「基礎」の設問では、認知・行動科学講座での研究に関連する基礎的な問題が複数問出題され、受験生はそこから小問1つを自由に選択し、回答する。選択する小問は必ずしも受験生の希望する研究室の専門と同じでなくとも良い。 「発展」の設問では、認知・行動科学講座での研究に関連する発展的な問題が複数問出題され、受験生はそこから希望する研究分野が指定する小問1つを選択し、回答する。指定以外の小問を回答した場合は、本設問に関する得点は無効とする。 本試験科目で出題される内容には、「基礎」と「発展」とともに、神経科学(認知神経科学・神経生理学)、心理学(認知心理学・社会心理学・文化心理学)、医学(精神医学・予防医学)、運動科学(運動制御・筋や神経の可塑性・感覚と運動・骨格筋代謝)、栄養科学、発達と教育などが含まれる。
	133	行動制御学	
	134	身体機能論	
	132	生理心理学	* 学生を募集しない。

令和4年度第2回 専門科目試験

出題説明一覧

共生人間学専攻(2/2)

講座番号	分野番号	分野名	出題内容についての示唆
14	141	現象数理論	線型代数学、解析学(微分積分学、関数論、フーリエ解析、力学系理論、確率論、微分方程式、関数解析)の知識と理解力を問う。
	142	数理情報論	情報科学全般の基礎的知識と計算機科学・人工知能・データサイエンス等の研究に必要な思考力を問う。 後者は、プログラミング、数理論理学、言語理論、計算理論、符号理論、アルゴリズムとデータ構造、機械学習等の分野および、これらに付随する数学の基本的な素養を対象とする。
15	151	言語情報科学	認知言語学・生成文法・機能的類型論・相互行為言語学などの主要な言語科学理論や、言語獲得・言語進化などの学際領域から、選択問題によりその基礎的理解と応用力を問う。英語問題に加え、選択でフランス語問題を含めることがある。
	152	言語比較論	諸言語を比較・対照し、分析・記述するために必要な基礎的知識と応用力を問う。
	153	言語情報システム論	* 学生を募集しない。
16	161	外国語教育論	外国語教育学(外国語習得論を含む)の分野から出題し、その分野での基礎知識だけでなく、判断力、自説形成力、論証力、説得力、及び個別言語での文章構成力(詳述力)も見る。
	162	言語教育研究開発論	言語教育学(教授法開発、教材開発、授業研究、教育評価など)、多言語社会論、異文化理解論の分野から出題し、その分野での基礎知識だけでなく、判断力、自説形成力、論証力、説得力、及び個別言語での文章構成力(詳述力)も見る。



令和4年度第2回 専門科目試験

出題説明一覧

共生文明学専攻(1/2)

講座番号	分野番号	分野名	出題内容についての示唆
21	211	文明構造論	以下の中から一つを選択する。 a. 近現代の社会思想に関わる諸問題を、主としてドイツ語圏の思想家・研究者の視点から問う。 b. 近現代の法哲学・政治理論上の諸問題を示してその基礎的な知識・理解を試すとともに、それに関する解答者の見解や問題関心を問う。 c. 近現代中国の思想や政治文化に関して問題関心や研究能力を問うとともに、より広い中国近現代史全体に対する理解も問う。
	212	現代社会論	現代文明のもつ特質と諸相、また近代における社会と経済の理論と実際、および思想に関する基本的問題を問う。
	213	国際社会論	以下の中から一つを選択する。 a. アメリカの歴史、文化、政治外交に関して英語を含む試験を行う。 b. 国際政治に関する概念や歴史に関する理解を問う。 c. 憲法・司法政治に関する理解を問う。比較憲法・比較司法政治（主にアメリカ）に関する理解を問うこともある。
22	221	多文化複合論	以下の中から一つを選択する。 a. 朝鮮半島を中心として、日本および中国も含めた東アジア世界における文化・思想・哲学・社会の諸問題について問う。 b. 中世の地中海・中東地域におけるユダヤ教・キリスト教・イスラームという三つの一神教文化間の交渉・複合関係について、基礎知識を問う。
	222	地域文明論	以下の中から一つを選択する。 a. 東アジア文化交渉史に関する基礎知識について問う。 b. 近現代の中国における文学・文化・思想の諸問題について問う。
	223	文明交流論	以下の中から一つを選択する。 a. アラブ・中東・イスラーム世界をはじめとする「第三世界」における文化・思想の諸問題について問う。 b. 近現代におけるフランスと日本の文学・演劇・思想について、両者の関わりも視野に入れて問う。外国語（英語・フランス語）の問題を課すこともある。 c. アメリカ合衆国を中心に西半球における移民の歴史について、資本主義や人種主義をめぐる諸問題を視野に入れて問う。

令和4年度第2回 専門科目試験

出題説明一覧

共生文明学専攻(2/2)

講座番号	分野番号	分野名	出題内容についての示唆
23	231	文化人類学	人類学の理論と民族誌的知識ならびに現代的課題について文化人類学的、社会人類学的視点からの理解を問う。
	232	地域空間論	人文地理学および地理学の基礎的知識と、その応用力を問う。
	233	環境構成論	建築学・都市計画学・図形科学に関する基礎的知識と理解力を問う。
	234	文化遺産学	以下の中から志望する教員の研究内容に最も近い分野の専門的知識と理解力を問う。 a. 古代の都城ならびに考古遺物の研究法に関する専門的知識を問う。 b. 保存科学に関する専門的知識を問う。 c. 史料(出土文字資料を中心とする)に関する専門的知識を問う。 d. 環境考古学に関する専門的知識を問う。 e. 原始・古代の精神文化に関する専門的知識を問う。
24	241	歴史社会論	以下の中から一つを選択する。 a. 日本古代・中世史に関する専門的知識を問う。 b. 中近世ヨーロッパ史についてその知識と理解を問う。また英語の読解についての試験も行う。
	242	東アジア文化論	以下の中から一つを選択する。 a. 日本語学・日本古典文学・日本近代文学に関する専門的知見、および文献解読の能力を問う。 b. 中国古典詩文の読解力と中国語学・中国文学に関する専門的知識を問う。 c. 古代から近世に至る中国史の専門的知識を問う。
	243	西欧文化論	イギリス文学に関する専門的知識およびその背景を成す歴史・文化・社会についての基本的知識と理解を問う。
	244	博物館文化財学	受験生が研究指導を受けることを希望する教員が指示する、分野の専門的知識と理解を問う。(なお、本分野の受験生は事前に研究指導を希望する教員と連絡をとり、これまでの研究状況や希望する研究テーマなどについて相談することが望ましい。)

令和4年度第2回 専門科目試験

出題説明一覧

関連環境学専攻(1/1)

講座番号	分野番号	分野名	出題内容についての示唆
31	311	共生社会環境論	公共政策学、環境経済学および社会学法について理解力を問う。

以下の3つの講座(6つの分野)の試験科目については、4つの理科学目(物理学、化学・物質科学、生物学、地球科学)のうちからどれを選択すべきかを、下記の通り分野ごとに指定している。選択肢の中からどの科目を受験するのか願書の⑤受験理科学目の欄に記入すること。(出願後の変更は認めない。)

講座番号	分野番号	分野名	試験科目名 (出題内容についての示唆は下記表の通り)
32	321	分子環境関連論	以下の中から一つを選択する a. 物理学 b. 化学・物質科学 c. 生物学
	322	生命環境関連論	以下の中から一つを選択する a. 物理学 b. 化学・物質科学 c. 生物学
33	331	生物環境動態論	生物学
	332	地球環境動態論	以下の中から一つを選択する a. 物理学 b. 化学・物質科学 c. 生物学 d. 地球科学
34	341	物質物性関連論	物理学
	342	物質機能関連論	以下の中から一つを選択する a. 物理学 b. 化学・物質科学

理科学目

試験科目名	出題内容の示唆
物理学	力学・電磁気学・熱力学・量子力学・統計力学などから、物理学の基礎学力を問う。
化学・物質科学	物理化学、無機・分析化学、有機化学等の5問の中から4問を選択して解答する。
生物学	植物学、動物学、系統分類学、生態学、微生物学、生化学、分子生物学など、生物学の基礎的な知識に関する問題の中から、少数の問題を選択して解答する(英語にて生物学の知識を問う場合もある)。
地球科学	地質学および関連分野(岩石学、地球化学、環境化学など)に関する基礎的知識とその考察力/応用力を問う。